

3年間を振り返って

高校生の頃、私が本学へ進学すると決意したのは「細かい作業が好きな私に向けてそうだから、歯科衛生士を目指してみよう」という好奇心からでした。入学時、これまで仲のよかった友達とも離れ、頼れる先輩もいなかったもので、楽しみよりも不安が大きかったです。入学後には少しずつ友達ができはじめましたが、大学での講義が始まると、口腔だけでなく全身まで学ばなければならないことを知り、「私に歯科衛生士は向いてるのかな…」と思ったことがありました。また、定期テストの科目も多く、心が折れそうになった時もありましたが、友達と食堂や図書館で勉強して励まし合ったり、悩んだ時は先生や両親、姉に相談したりして乗り越えることができました。

1年生の夏期休暇からは、知識を深めるために歯科医院でアルバイトをはじめ、そこで本学卒業生の先輩と出会いました。その先輩と患者様との信頼関係をみているうちに、歯科衛生士の素晴らしさを実感し、先輩のようになりたい、自分が担当する患者を持ちたい、という目標ができました。この経験を通して、それからの講義や1年生の後半から始まる学内実習での新しい学びが楽しくなりました。このことは、今も私がかんばれる理由にもなっています。

2年生の後期から始まる臨地実習は、新型コロナウイルスが流行していたため、実習に行けるかどうか分からない状態でしたが、先生方のおかげで無事全ての臨地実習を終えることができました。また、臨地実習は厳しいという噂を耳にしていたのですが、私は不安よりも楽しみの方が大きかったです。様々な歯科医院や病院などの臨床の場で、実際に見学や実践をしながら学べるのが何よりも楽しく、それぞれの施設でしか学べないことも沢山あり、1番成長することができたと実感しています。沢山の歯科医師の方や歯科衛生士の方に指導をさせていただきながら学ぶことで、自身がどのような歯科衛生士になりたいのかを再確認することができました。

このような恵まれた環境で3年間学習してきましたが、4月からはまた新しい環境へと変わります。本学で学んだことを活かしながら、さらに新しい知識や技術を身につけて成長し、頼れる、信頼される歯科衛生士になりたいと思います。また、口腔の健康から患者様の心身の健康までも支えるようになりたいです。そのためにはまず、3月の国家試験に皆で合格できるようにがんばります。



穂積 千湖(3年生)